

Topic

国立アイヌ民族博物館の設計概要について ～北海道初の国立博物館～

営繕整備課

国立アイヌ民族博物館は、白老町ポロト湖畔に計画されている民族共生象徴空間の中核施設として整備されます。設計にあたって3つの基本方針を定め、それを実現する計画としております。

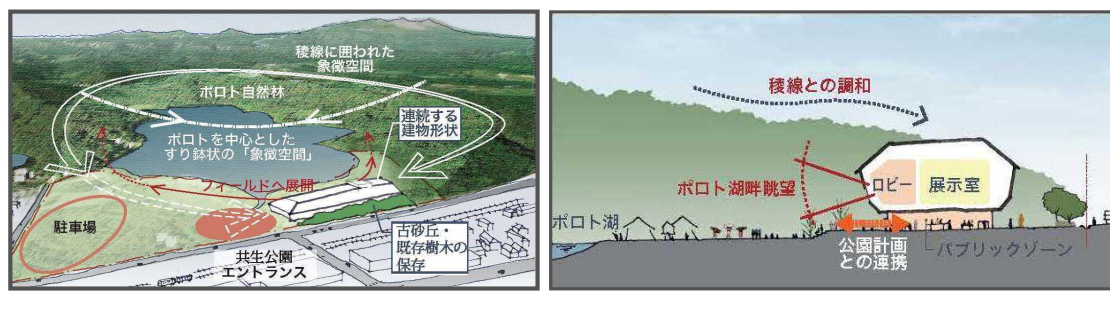
基本方針① ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

○自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和

- ・ポロト湖畔周囲に広がる、すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
- ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保

○国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出

- ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置



■ポロトを中心とした山並みとの連続性を強く意識した外観計画



本イメージ図は設計段階における案であり、変更の可能性がある。

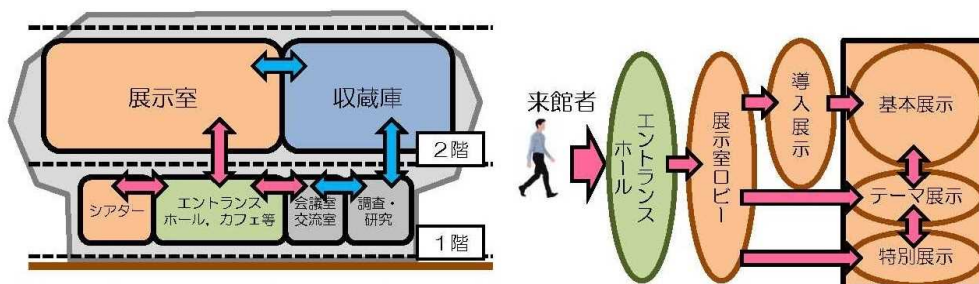
基本方針② アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する 展示・研究拠点

○来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画

- ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画
- ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意

○確実な資料保存や研究に必要な空間の確保

- ・貴重な資料を展示、収蔵するため、展示室や収蔵庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意



- 貴重な資料を展示、収蔵する展示室・収蔵庫及びポロト湖畔を眺望する展示室ロビーを2階に配置。



基本方針③ 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点

○展示替えに対応できる展示室

- ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応

○多言語対応、アイヌ文様の活用

- ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
- ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現

国立アイヌ民族博物館は『先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する』ことを理念とし、設計しています。

また、北海道初の国立博物館として、2020年4月オープンを目指し工事が進められているところです。

■建物概要

建設場所	白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）
敷地面積	約10,000 m ²
延べ面積	約8,600 m ²
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 3階建
企画・設計監修	北海道開発局営繕部
基本・実施設計	株式会社久米設計